

生徒1人1台学習用タブレットの活用と購入について

京都府立東舞鶴高等学校
校長 塩尻 徹

1 なぜ生徒1人1台学習用タブレットが必要なのか

(1) 今日の社会状況

- ・日本（さらには舞鶴市や京都府北部）の人口の減少、特に生産年齢人口（15～65歳）の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく変化しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、生徒を取り巻く教育環境も大きく変化しています。
- ・高校では今年度から本格実施の新しい学習指導要領のもとで、これからの時代を切り拓いていくことができる「力」を育むことをめざしています。

(2) これからの教育の姿

- ・「情報活用能力」は「学習の基盤となる資質・能力」です。つまり紙文書であれデジタルデータであれ、「情報」を正しく、有効・適切に利活用できることがすべての学習の基盤であり、「次世代の子供たちが未来を生き抜く力」だと言えます。
- ・今後は「学習用端末（タブレット等）は鉛筆やノートと並びマストアイテム」であり、「1人1台端末環境は令和の時代における学校のスタンダード」となる見込みです。
- ・タブレット等を学習のツール（道具）、つまり文房具として活用し、すべての生徒の可能性を引き出し、高めることが重要になっています。

2 高校でどのようにタブレットを活用するか

- ・すでに中学校3年生のみなさんはタブレットを持ち、授業等で活用しており、高校でもさらにそれを充実させます。
- ・東舞鶴高校でも、1人1台のタブレットを次のように活用し、思考・判断・表現する力に加え、「情報活用能力」「協働力」「創造力」を一層高めて、「未来を創造する人」を育てていきます。
 - 授業理解を深めるため学習内容に関連した写真や動画などを視聴する
 - オンラインで、離れた場所の高校生と協働学習したり、関係機関等とつながって講義などを受講したりする
 - 「総合的な探究の時間（マイガクⅠ・Ⅱ）」や探究的な活動をふんだんに取り入れた授業でデータを収集・分析し発表資料を作成する

- 到達度テストや小テスト等の結果をデータとして蓄え、各個人の理解状況に応じた学習につなげる
- 「スタディサプリ」等のコンテンツを活用して基礎学力を身に付け、また自主的・主体的に各自が学力の向上、個性・能力の伸長に取り組む
- 家庭においても、配信された課題に取り組み、提出する
- 様々な学習活動に加え、部活動や学校行事、その他の自主的活動の成果やそこから得られたことを各自の記録（ポートフォリオ）として蓄積し、将来の進路決定などの際に活用する
- 学校からの連絡や部活動等の情報を共有する
- ・万一、新型コロナウイルス対応などで臨時休業せざるを得ない状況になった場合には、学習課題の配信や提出、オンラインによる指導や個人面談など、学習保障や生徒支援等のツールとしてタブレットを有効に活用していきます。

3 どのようにタブレットを入手するのか

- ・小・中学校では、各市町村がタブレットを整備しましたが、府立高校では、全日制・定時制ともに原則として学校指定のタブレットを購入していただきたいと考えています。
- ・保護者のみなさまに新たな費用負担をお願いすることになりますが、生徒たちのこれからの学びには必須のものでありますので、御理解の上で御準備をお願いします。
- ・個人で購入していただく方式をとるのは、生徒のみなさんの主体性に基づく、より創造的な活用や家庭での利用などを想定し、いつでも、どこでも使えるのが望ましいと考えるからです。そのためには、学校の備品としてではなく自分の文房具として持っていただきたいと考えます。さらには、各自のものから、高校を卒業した後も引き続き使用できることとなります。
- ・必要な費用や、申込み、支払いの時期・方法などは、今後連絡いたします。
- ・購入支援制度を同時にお伝えしますので、参考にしてください。
- ・御質問があれば、学校へお問い合わせください。

京都府立東舞鶴高等学校

〒625-0026 京都府舞鶴市字泉源寺 766 番地

TEL 0773-62-5510 FAX 0773-62-1451

<https://www.kyoto-be.ne.jp/higashimaizuru-hs/mt/>

E-Mail higashimaizuru-hs@kyoto-be.ne.jp